

☆☆



せりがやだより



横浜市立芹が谷小学校 学校便り 令和3年度9月号

学校ホームページアドレス <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/serigaya/>

横浜市立芹が谷小学校

検索



☆☆

感染拡大の中での9月からの教育活動

校長 江目 親利

この夏、新型コロナウイルスの感染が爆発的に広がりましたが、お子さんたちは、どのような夏休みを過ごしていたでしょうか。自分なりに考えて充実した夏休みを元気に過ごせていたでしょうか。

夏休み前の最後の朝会で、校長から、この夏は、おうち時間が増えると思うので、家族の一員として、家族に貢献できる家庭の役割を自分でしっかりとって、たくさんおうちの仕事をしてほしいことを話しました。お子さんたちは、きっと、家族の一員として、この夏、たくさんおうちの役割を引き受け、活躍してくれていたことだと思います。

子ども達から、夏休みの頑張っていた様子を聴くのが楽しみです。

さて、9月1日(水)の学校再開に向けて、横浜市教育委員会の通知を受けて、何度もメール配信をしたり、ホームページに「9月1日からの教育活動」について学校から情報発信をさせていただいたりして、今日の学校再開にいたしました。

現在、全国で連日2万人前後の新規感染者があり、神奈川県でも連日2千人前後の新規感染者があります。学校としましては、最善の感染防止対策を取って学校の再開を迎えました。

次のような感染対策を行いますので、お子さんを安心して登校させてください。

- 13日(月)までの分散登校では、各学級約半数の子ども達が一日おきに登校しますが、座席は隣同士の席にならないように工夫をします。
- 消毒もこれまで以上にこまめに行います。
- 手洗い・うがいをこまめに行って過ごすよう頻りに声をかけながら学校でできる感染予防を徹底して過ごすようにします。
- 教室の窓や廊下側の窓は、子ども達が登校する前に必ず開放し、風通しをよくしておきます。
- 複数の子ども達が使う遊具は、感染状況が落ち着くまでは使わないようにします。
- 感染症対策と同時に、熱中症対策も行い、熱中症にも気をつけて過ごせるようにします。
- 子ども達の遊びにある程度の制限をかけますが、ストレスが溜まらないように工夫をして過ごせるようにします。

8月末より、職員で話し合いを重ね、今後の学級での過ごし方や様々な行事等についてもどのように進めるか検討をしています。子ども達が、充実した学校生活を送るために、学校としては、あらゆる感染予防策を考え、縮小はあるもののできる限り充実した学級での生活や行事等を行っていく予定です。学年便りや保健便り、その他のお知らせ等で発信していきますので、ご意見がありましたら、ご家庭や地域の方からの忌憚のないご意見をお待ちしております。

とも **共にチャレンジ** かがや **みんな輝け!**

せいっ子スマイル 楽しく何でもチャレンジ！！



「英語村」を二日に分けて実施しました。



例年は、全校を一日がかりで実施する「英語村」を、今年度は7月1日（木）と8日（木）の二日に分け、全学級を半分ずつの人数に行いました。担任の先生はもちろん、村長の校長先生を始め、専科などの先生たちも総動員でこの機会を実現できるように応援しました。

1時間を前半と後半に分けて、1回で2つのアクティビティを受けられるようにもしました。子どもたち同士の活動交流場面を割愛せざるを得ない分を有効に生かした逆転の発想です。

受講後は、手作りのパスポートに修了の証明印を押してもらって、貴重な体験をまた一つ増やすことができました。



二年ぶりに、プールで水泳学習を行いました。(6年生のみ)

今年度は、7月に3回、6年生だけが、二年ぶりに水泳学習を実施することができました。子どもたちの間隔を十分にとるために、学級別でしか授業を行うことができず、指導者の確保など体制の面から、卒業まで最後の機会になる6年生のみ実施が叶いました。学習中、声を出すことを控え、静まり返った中での授業になりましたが、それができる6年生で、立派でした。先生たちも、飛沫を防ぐために、プール内でも着けることができるマスクを用いて、できる限りの策を講じて、安心と安全を守るようにしました。



学校運営協議会や学援隊の皆様との話し合いを通して、地域の声を聴きました。

7月6日(火)に、今年度の第2回学校運営協議会を開催しました。ご都合が付き委員の方には、5・6時間目の授業を参観いただき、子どもたちの学習の姿や先生たちの指導の実際を知っていただきました。参観後の協議会では、学校からの参加者を主幹教諭だけに限り、人数を少なくして、ご感想やご意見を聴きました。新型コロナ対応を行いつつ、新しい生活様式の中で、学校と地域がどのようにかかわり合って子どもたちの成長を支え、導くことができるのかについて貴重なご意見をいただきました。できないことが増える中ですが、これからもできることを共に探して実践していきたいと思えます。

同様に、7月9日(金)には、子どもたちの登下校を見守っていただいている学援隊の皆様との第1回の打合せ会をもちました。この状況下でも、子どもたちにあいさつの励行を大切にしたいという思いを受けました。



ストレスとの上手な付き合い方

児童支援専任 白川 啓介

皆さん、夏休みは、十分に休めたでしょうか。長期休み明けは、生活のリズムが乱れていたり、家族以外と話す機会が増え、疲れやすくなることが多いように思います。表に出さないタイプの子どもの友達や先生との関わりや時間割どおりの学習などにストレスを感じることもあるようです。今回は、ストレスを感じているときの体の変化や、その付き合い方について紹介します。

大人子どもに関係なく、誰しも日々ストレスを感じます。対人関係だけでなく、気温の変化や騒音など、様々な要因がストレスになります。日常にあふれているからこそ、ストレスを取り除くだけでなく、「どう付き合い合っていくか。」や、「どう解消していくか。」を考える必要があります。自分に合ったストレスとの付き合い方を知ると、困難にぶつかったとき、自力で解決策を見つけやすくなります。

とはいえ、小学生は、ストレスを乗り越える力も経験も足りません。だからこそ、大人のアドバイスが必要になります。ストレスから自分を守るための心の防衛反応を「防衛機制」と言いますが、ここでその例をいくつか紹介します。(防衛体制には、まだ種類があるので、興味のある方は調べてみてください。)

- ① 否認(現実を否定して、認めようとしない。)
- ② 抑圧(自分の気持ちを抑し込めて、忘れようとする。)
- ③ 逃避(ゲームや本など関係ないことに没頭して、気を紛らわそうとする。)
- ④ 反動形成(自分の思いとは反対のことをする。)

これまでお子さんがこれらの行動をとったことはありませんか。それは子どもなりに、ストレスから身を守っている合図かもしれません。しかし、この子どもの様子では、望ましくない場面もあるはず。だから、次のようにして、ストレスと付き合い合えるよう、アドバイスが必要です。

- ⑤ 昇華(自分のストレスを受け止め、学問や芸術など望ましい方向に変化させる。)
- ⑥ 補償(自分の思いどおりにならないことを他の分野で取り返し、心の埋め合わせをする。)

ストレスと上手に付き合い合える方法を知ることによって、精神的に大きく成長できます。ストレスの感じ方は、人それぞれです。大きく感じる人もいれば、あまり感じない人もいます。今年は特に、夏休み明け直前の臨時休業や分散登校など、ストレスになりうる要因がたくさんあります。学校では、登校した子どもたちの様子を十分に観察し、一人ひとりの変化に気づけるよう努めていきます。同時にご家庭でも、お子さんの様子を気にしていただき、情報を共有していければと思っています。学校、家庭、地域で子どもたちを見守り、子どもたちに我慢させすぎず、ストレスと上手に付き合い合える子どもと一緒に育てていきたいと思います。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。